

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人山本能楽堂	
施 設 名	山本能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	3,843	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,843 (千円)

1. 事業概要

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ストリートライブ能	4月2日、11月11日他	能「高砂」 今村一夫、山本章弘、森本哲郎、飯田清一、河村凜太郎他	目標値	1,000
		中大江公園		実績値	約1100
2	アートによる能案内	—	—	目標値	50
		—		実績値	—
3	能と遊ぼう!	—	—	目標値	150
		—		実績値	—
4	高校DEうたい隊	—	—	目標値	200
		—		実績値	—
5	大大阪時代と芸能文化シリーズ	10月28日	高島幸次(歴史学者・大阪大学招聘教授)、山本章弘	目標値	90
		山本能楽堂		実績値	68
6	出前能	—	—	目標値	100
		—		実績値	—
7	伝統芸能塾 まっちゃんちサロンPLUS	7月13日、9月1日他	山本章弘(シテ方)、竹澤宗助(文楽三味線)、安田登(ワキ方)、小野真龍(四天王寺楽所)	目標値	1,080
		山本能楽堂		実績値	261
8	能活	8月26日、9月9日他	—	目標値	150
		山本能楽堂		実績値	37
9	子どものための伝統芸能寺子屋塾	8月7日、8月21日他	山本章弘(能楽師)、桐竹勘次郎(文楽・人形遣い)桂ちょうば(落語家)	目標値	150
		山本能楽堂		実績値	108
10	読む能、謡う能	—	—	目標値	200
		—		実績値	—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

Tradition for a better future

—伝統芸能をよりよい未来社会に活かす—

山本能楽堂は「Tradition for a better future」をミッションとしてかけ、大阪ならではの地域の特性を活かし、秀吉に愛された能楽を中心に大阪に伝わる上方伝統芸能を現代社会に活かし、「伝統をより良い未来社会に活かす」べく事業を実施している。伝統芸能は、急激に生活様式が変化しつつある現代社会においては、一般の方には縁遠い世界のように思われがちである。当財団は、多様で多彩な切口で伝統芸能を紹介することで、「現代に生きる魅力的な芸能」として捉えなおし、次代への継承へと繋げていきたいと考えている。

また、大阪は、秀吉が能の魅力に傾倒し、「見るだけ」でなく「自ら能を舞う楽しみ」を見出して以来、「嗜む文化」が形成され、その後、文楽、上方歌舞伎、落語、講談、浪曲など、多彩な上方伝統芸能が生まれ、育まれた「文化集積都市＝芸能の都」である。その特性を活かし、「芸能の都」として多面的・多角的に能を中心として、文楽、歌舞伎、上方舞、落語、講談、浪曲等の大阪で伝えられ、育まれてきた上方伝統芸能全体の、魅力の創出、情報発信による普及・啓発をおこない、市民によって守られ、「人の手から手へと」伝え続けられてきた伝統芸能が、社会における役割を再確認し、その魅力を再構築し、伝統芸能が社会に果たすべき役割を追求し、事業を実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当財団は、2006年頃より、大阪の経済団体や観光協会等と連携し、大阪に伝わる伝統芸能を貴重な地域遺産として捉え、その魅力を観光に活かすことで、観光集客を行い地域の活性化を目指すよう活動を続けてきた。助成を頂くことで、様々な先駆的で、実験的な事業を行ったり、専門的な事業を行い、地域に伝わる伝統芸能の魅力を広く伝えることができ、そのノウハウやネットワークを活かし、2025年大阪・関西万博に向け、少しずつではあるが、国内外から大阪を訪れる観光客に向けた商品開発を行うことが可能となり、文化を経済に活かす取組を行わせて頂けるようになり、継続して、事業に取り組んでいきたい。

・**文化的意義**：地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、多彩な演者と連携し、ネットワークを構築し公演を継続して実施することで、情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげることができた。

・**社会的意義**：敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。同時に、演者同士の連携を育み、上方伝統芸能全体の活性化につなげ、創造活動の幅を広げることができた。活動を継続して実施することで、上方伝統芸能の周知につながり、他団体との連携が生まれ、「面」としての地域活性化につなげ、地域住民のシビックプライドを構築することができた。

・**経済的意義**：上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え地域の活性化を行うことを目的に活動を行っているが、2025年大阪・関西万博に向け、ようやく取組ませて頂けるようになりつつある。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

下記の6つの目標を掲げ今年度の事業を実施した。その中の事業の1つに、アンケートで「これまでに能を見たことがある」と回答した人が約1%しかなかったことに衝撃を受け、で2006年から偶然その場に居合わせた、老若男女、国籍を問わない不特定多数の方に能の魅力を知って頂くため開始した「ストリートライブ能」の活動があるが、長かったコロナ禍がようやく終わり、地域の連携により、再び多くの方々にご参加いただき、能の魅力を周知させて頂けたことに大きな達成感を得ることができました。

【令和5年度の事業の目標】

- ① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承
- ② 「芸能の都・大阪」の魅力発信
- ③ 時代に生きる芸術創造の場としての活動
- ④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育
- ⑤ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂）
- ⑥ 国際交流・国際相互理解の推進

【令和5年度の事業の目標の達成について】

- ① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承

➡当財団の主催公演として「たにまち能」「とくい能」などの能楽公演を実施し、本事業として「伝統芸能塾まっちゃまちサロンPLUS」や「能活」で能の基礎知識や踏み込んだ演目の魅力を伝え、能楽が持つ魅力を幅広く伝えることができた。

- ② 「芸能の都・大阪」の魅力発信

➡当財団主催公演として「初心者のための上方伝統芸能ナイト」等の上方伝統芸能の公演を実施し、本事業による「伝統芸能塾まっちゃまちサロンPLUS」や「子どものための伝統芸能寺子屋塾」を実施し、その魅力をより広く伝えることができた。また、歴史学者で天神信仰の研究の第一人者の高島幸次先生を迎え、大阪が経済の発展と共に豊かな文化が花開いた「大大阪時代」に焦点をあてその魅力を広く紹介することで、大阪のシビックプライドを構築することができた。

- ③ 時代に生きる芸術創造の場としての活動

➡当財団主催公演として、ワキ方の安田登氏とともに山本章弘が新作能「ファウスト」をルーマニアで制作・初演し、新しい能楽の魅力を創造することができたが、安田氏とは「伝統芸能塾まっちゃまちサロンPLUS」において、能楽の魅力に落語や浪曲、朗読を組み合わせた新たな魅力にあふれた講座を行うことができた。

- ④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育

➡「子どものための伝統芸能寺子屋塾」の事業により、小学生を対象とした講座やワークショップがほとんど行われていない能楽や文楽、落語の魅力を子ども達に伝えることができた。

- ⑤ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂）

➡今回の事業で、老人福祉設で実施予定であった「出前能」を実施することができなかったが、ストリートライブ能の事業では、車いすや障がい者の方、乳幼児など、普段はなかなか劇場で芸術鑑賞を行うことが難しい方も気軽に参加し、楽しんで頂くことができた。

- ⑥ 国際交流・国際相互理解の推進

➡当財団では、2016年よりヨーロッパ三大演劇祭の1つであるルーマニアのシビウ国際演劇祭から招へいを受け8年連続参加しているが演劇祭を代表するプルカレーテ氏演出の「ファウスト」に対峙する新作能を初演した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度の事業では、様々なアクシデントが重なり、当初計画していた半分程度の事業を実施することができなかった。次年度はこのようなことがないように、事業にしっかりと取り組んでいきたい。

実施することができた事業に関しては、地域との連携を行い工夫をおこないながら、概ね計画通りに行うことができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度の事業では、様々なアクシデントが重なり、当初計画していた半分程度の事業を実施することができなかった。次年度はこのようなことがないように、事業にしっかりと取り組んでいきたい。

実施することができた事業に関しては、工夫を凝らすことで、事業費を抑えて事業を実施することが可能となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

大阪は「芸能の都」であり、地域の実演芸術として、天下人となった太閤秀吉が傾倒した能楽を始め、江戸時代に生まれた文楽や上方歌舞伎、上方講談、上方落語、約100年前に生まれた浪曲（浪花節）など、多様で多彩な上方伝統芸能が生まれ、育まれてきたが、それらの芸能の魅力を再構築し、ネットワークを広げ、魅力発信を行うことで、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮し、時代の要望にあわせ、新たな企画を立ち上げ、文化芸術の創造につながるよう今年度も取り組むことができた。

本事業を基本として、芸術文化団体だけでなく、行政や観光団体、経済団体、地域の文化振興団体等と連携を行い事業を行うことで、活動を幅広い層に周知し、参加を募ることが可能となり、地域の実演芸術の振興につなげることができた。

また、活動を継続して実施できたことで、2025年大阪・関西万博に向け、地域の文化遺産である上方伝統芸能の魅力を、インバウンドを推進し、外国人も含め、世界から大阪に集まる人々に向け、発信していけるよう取り組んでいきたいと企画している。

・令和5年9月19日から22日（金）（日本経済新聞 編集委員 毛糠秀樹）

能の魅力を世界へ①～④ 4日間連続の特集連載

室町時代に大成された「能」。ペトコ・スラボフさんはブルガリアで生れ、日本への約7年の滞在で、その奥深さを知った。魅力を伝えたいと、アプリづくりや海外公演のコーディネーターとして後押しをする。

（中略）西洋の神話・伝統を題材にした新作能では、現地の子どもたちに登場してもらった演出に挑戦した。ギリシャ神話に登場する吟遊詩人、オルフェウスはたて琴の名手で、その音色に全ての動植物が酔ったという言い伝えがあります。山本先生は西洋では誰もが知る存在を素材に、自らも実践するSDGs（国連の持続可能な開発目標）の考え方に沿って、人間と自然の共生をテーマに新たに能の演目を作りました。公演は街の一角に残る古代ローマ時代の野外劇場という特殊な場所でしたが、子ども達はのびのび演じ、観客の大きな拍手に手を振って応えていました。最後に子ども達の顔と名前をプロジェクターで劇場の壁に大きく投影し、大好評でした。

23年2月、伝統芸能の普及、日ブルガリア間の友好親善に寄与したとして、ソフィアの日本大使公邸で「チーム翁」として外務大臣表彰を受けた。

・令和6年4月20日 読売新聞朝刊（編集委員 坂成美保氏）

「関西経済 伝統芸能の魅力万博発信」

室町時代に世阿弥が完成させた能は、600年の伝統を持つ仮面劇で、狂言を含めた「能楽」として、国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されている。開幕が1年後に迫った大阪・関西万博は、能を始め日本の伝統文化を発信する好機でもある。万博で創作能を披露する能楽師・山本章弘さんに伝統芸能の可能性について聞いた。

「生音の波動」大阪・関西万博に求められているのは、インターネットや仮想の体験ではなく、「生」「ライブ」が持つリアリティーとわくわく感だ。

（中略）

芸能は言語や国籍、文化の違いを超え、感動を与えることができる。万博がその可能性を再認識できる機会になればいい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

また、大阪は「やってみなはれ」の気風が根付いた土地である。官より民の力が歴史的にも強く、チャレンジする精神が育まれてきた。当財団は、大都会の大阪の中の小さな能楽堂であるが、行政や民間、市民との連携を深め、幅広いネットワークを構築することで、世界に向けて、大阪の魅力を発信し、シビックプライドの構築や地域への愛着につなげ、地域の文化芸術の発展につながるよう取り組んでいる。

・令和5年6月19日 読売新聞夕刊（編集委員 坂成美保氏）

ヨーロッパ3大演劇祭の1つで、ルーマニアの観光都市シビウで開催されているシビウ国際演劇祭に、大阪の能楽師・山本章弘が運営する山本能楽堂（大阪市中中央区）が招待され、30日に現地で新作能を初演する・同演劇祭の看板作品で世界的演出家シルヴィフ・プルカレーテが手がけた「ファウスト」に着想を得て、制作した作品。西洋と東洋の融合を試み、能楽の普遍的な魅力をアピールするという。

山本能楽堂は、演劇祭の総監督を務めるコンスタンチン・キリアックの招きで、2016年に日本の能楽としては初めて参加。以来、毎年参加し「安達原」「羽衣」「鉄輪」などを披露してきた。（中略）

山本は「世界中の人々が知っているゲーテの代表作。演劇祭の看板作品に対峙する作品として、能楽の伝統的な形式で制作・上演し、能楽が持つ普遍的な魅力を国や宗教、言語を超えて世界の人々と共有できれば」と期待を込める。

・令和5年9月8日 読売新聞夕刊（編集委員 坂成美保氏）

ヨーロッパ三大演劇祭の1つ、シビウ国際演劇祭が6~7月、ルーマニアの小都市シビウで開催された。30回の節目を迎えた今年は81カ国から約5000人が参加し、披露したパフォーマンスは825になった。日本からは演出家・俳優の串田和美や山本能楽堂（大阪市中中央区）を運営する観世流能楽師・山本章弘らが参加。8月、大阪市内で帰国報告会が開かれた。（中略）山本が目指したのは「西洋と東洋の古典作品の融合」。死者の魂が登場する能の形式を生かし、「悪徳を重ねたファウストの魂が死後もさまよっているが、仏教の力で救済される物語にした」と明かす。

・令和6年2月28日 読売新聞夕刊（編集委員 坂成美保氏）

山本能楽堂では、昨年末、英語による司会進行、英語字幕付きの能・文楽上演、英語落語の「初心者のための上方伝統芸能ナイト」を開催した。昨秋開催した外国人向けの能楽堂見学会も好評だったという。万博に向け、新年度からは、同種の外国人向け公演を月1回ペースで続けていく方針だ。

・令和6年4月11日 JAPAN NEWS

Osaka theaters add English, anime tie-ins to program

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(事業運営について)

英国留学の経験を持ち外資系企業で働いた人員や大手企業で勤務していた者をスタッフに迎え組織を構築・強化し、2025年大阪・関西万博に向け、事務所内で恒常的に英語対応ができる環境を整備した。さらに銀行勤務経験者を経理に迎え、外部監査の的確な指導を受けることで、組織が継続的に改善し、機能が強化された。さらに、職員が、文化庁や、芸術団体、商工会議所、NPO団体等が主催のセミナーや講習会、研修会ならびに勉強会に積極的に参加することで、組織内部でのキャリアパスに取り組んでいる。

(演者・芸術家ならびに劇場・音楽堂間のネットワークの形成)

伝統芸能はもとより、西洋音楽、コンテンポラリーダンス、ブレイクダンス、人形劇、現代美術家、茶道家、華道家など幅広い舞台芸術関係者との人的ネットワークを構築し、常に意見交換や情報共有をおこなうことで、新しい芸術創造の可能性を追求している。

(教育機関とのネットワークの形成)

事業を実施することで、活動が認められ、京都造形芸術大学、相愛大学、神戸女学院大学等と連携し、学生達がフィールドワークに訪れ、公演に参加する等ネットワークを形成している。また、関西大学の能楽部を指導し、後継者の育成につとめている。大阪市内の小学校、高等学校の生徒の授業ならびにキャリア教育等を受け入れている。神戸大学に交換留学生として在籍している英国ハーバード大学の学生のインターンシップを受け入れ、外国人の能楽への興味や視点を探り、留学生の視点を事業に生かす機会としている。

(経営戦略について)

年間を通じて後援会の入会の勧誘ならびに寄付者・支援者への依頼、他の助成金への申請を継続的に実施し、安定的な収益基盤をつくり財源確保できるよう取り組んでいる。事業を行い、活動に参加していただくことで、支援者への理解と、新規支援者の獲得につなげられるよう努力している。財政状況は厳しい状況が続くが、支援者の数は増加している。

(海外との連携/将来の戦略)

当財団は、2011年より海外公演を開始し、これまでに、10か国、19都市で54公演を実施してきた。今年度は、ルーマニアのシビウ国際演劇祭参加に加え、日トルコ外交関係樹立100周年記念としてイスタンブールで2公演、日ブルガリア外交関係樹立115周年記念事業としてブルガリア国立劇場で1公演、日ギリシャ外交関係樹立125周年としてギリシャ国立劇場の野外舞台で1公演を実施し、これまで能の魅力があまり届いてこなかった地域で、能の公演を実施し、国際相互理解を深めている。ヨーロッパ最大規模のルーマニアのシビウ国際演劇祭には、2016年から毎年連続で招へいを受け、コロナ禍でもオンライン配信で参加してきて、9年連続参加の最多団体となり、強いネットワークを築いている。

欧州文化首都とも2013年にコシツェで参加して以来、2019プロブディフ（ブルガリア）、2022年ティミショアラ（ルーマニア）に参加し連携を深めているが、2023年にもティミショアラに参加予定である。

また、2022年11月に大阪市ミラノ市姉妹都市提携40周年記念能楽公演を実施し、この公演がきっかけに、国立ミラノ大学に能を学ぶコースが新設されたが、今後も連携を行い、ヨーロッパでの更なる日本文化への普及につなげていきたい。